地域観光支援室　活動レポート　No.１（2014.9.19）

2015～16年シーズンスノーパーク運営会議が始動

稚内北星学園大学　地域観光支援室

はじめに

藤崎達也本学講師（地域観光支援室副室長）は、2015～16年シーズンスノーパーク運営会議に参画しており、その第１回運営会議が開催された。

これまでの活動経緯と成果

雪国で大切な観光施設であるスキー場経営は、スキー客の減少や自治体の財政難をうけて厳しい状態が続いている。一方で、北国の冬の健康増進や青少年の健全育成の観点から、スポーツ環境の充実が求められている。

昨年度、藤崎本学講師は地元の有志のボランティアをコーディネートして、こまどりスキー場にスノーボードパークを設置した。

工事に必要な重機などはスノーボードをする子供の親達が操縦し、本来であれば数百万円かかる工事を、わずか30万円ほどで行った。

このように、地方のスポーツ観光施設は協働型ユーザー（参考文献[１]）と呼ぶべき利用者と施設管理者等とのコラボで運営するモデルを模索する時期に来ている。

稚内市では、市教育委員会、指定管理者、そしてスノーボード愛好家がこれまでの、管理者–利用者の枠を超えたスキー場運営を始めた。本学は、施設運営のみならず、コミュニティ育成に寄与している。

夏期のオフトレーニングとして本学体育館にてトランポリンを使っての空中姿勢の練習など、通年での活動環境を提供している。

このことは、技術向上のみならず、コミュニティのつながりを助ける上で有効と考えられる。

会議の概要

今回の会議は、今年度の運営にかかる内容を議論する目的で、下記の通り行われた。

１．日　時　９月18日（木）10:30～11:30
２．場　所　（株）稚内振興公社
３．参加者　佐々木課長（稚内振興公社）
　　横澤輝樹
　　木村亘（seamore）
　　藤崎講師（稚内北星学園大学）
４．内　容
　１）2015～16年シーズンスノーパーク運営について
　２）昨年度の総括
　３）パークの改修について
　　昨年の危険箇所、整備がしにくい箇所などを中心に
　４）安全管理者（ディガー）の確保確認
　５）財政
　　工事の実費をクラウドファンディングにて募集
　６）その他
　　スキー協会等との事前打ち合わせの必要性など

今後の展望

本事業には、引き続き藤崎本学講師がコーディネーターとして参画する。今後は、本学の進めている「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備」との連携を図り、本学の教育力向上にも結び付けられることが期待できる。

＜参考文献＞

[１] 藤崎達也（2014）「協働型ユーザーによる地域スポーツ施設の運営管理モデル」『稚内北星学園大学紀要』第14号。

お問合せ先　稚内北星学園大学　地域観光支援室　担当　藤崎達也
〒097-0013　稚内市若葉台１丁目2290－28　電話 0162-32-7511　FAX 0162-32-7500　E-mail info(ｱｯﾄ)wakhok.ac.jp
URL http://www.wakhok.ac.jp/coc.html
※(ｱｯﾄ)は@に変換してください

(2014.10.7)